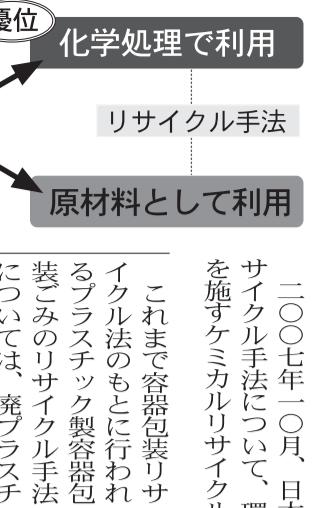


環境負荷削減

原材料へ戻すより化学処理

分析調査

容器包装リサイクル協会



二〇〇七年一〇月、日本容器包装リサイクル協会は、廃プラスチックのリサイクル手法について、環境負荷の分析結果を公表した。ここでは化学処理を施すケミカルリサイクルがより少ない環境負荷であることが示された。これまで容器包装リサイクルが優先されるべきといわれていた。廃プラスチックを熱処理などの方法で油やガスに分解して、もとのプラスチック製容器包装ごみに戻す「材料リサイクル」については、廃プラスチック製容器包装のリサイクル法のもとに行われている。二〇〇六年一月、環境省は一九九一年から実施している「環境にやさしい企業行動調査」の〇六年度集計結果を発表した。前年同様、八割以上の企業が、環境への取り組みを社会的責任と考えていることがわかった。

廃プラスチックのリサイクル手法

廃プラスチックのリサイクル手法	
材料リサイクル	細かいペレットなどにし、プラスチック製品の原料に
油化	ペレットなどを熱分解して油にし、燃料などに利用
ガス化	熱分解したガスを燃料や化学原料として利用
高炉還元剤化	製鉄所の高炉でコークスの代わりに還元剤として利用
コークス炉化学原料化	熱分解により、油・ガス・コークスにする

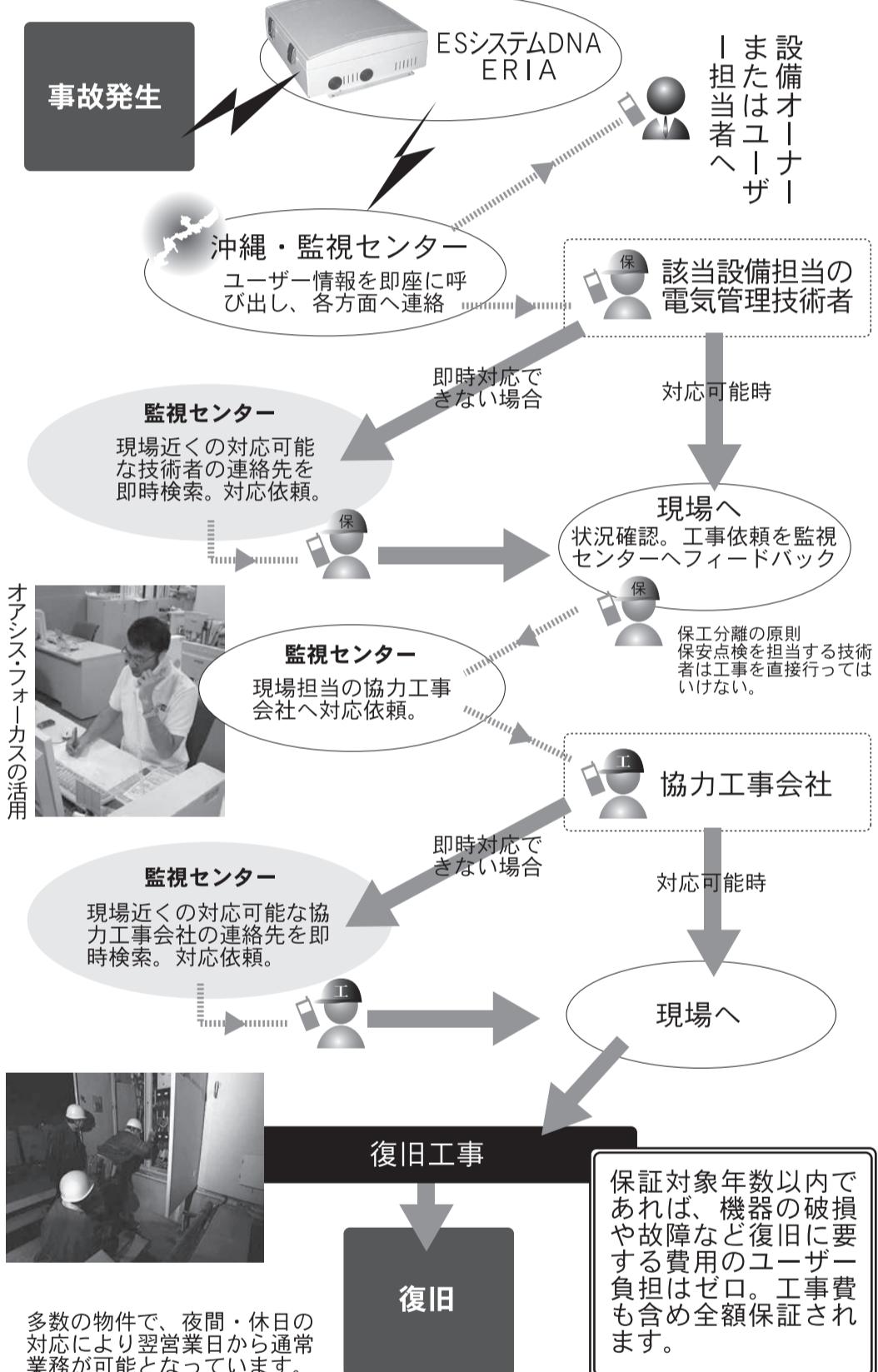
廃プラスチックの有効利用量	
廃プラスチック総排出量 1005万トン	
未利用量	284万トン(28%)
埋め立て	127万トン 13%
単純焼却	157万トン 16%
有効利用量	721万トン(72%)
エネルギー回収	489万トン 49%
リサイクル	28万トン 3%
リサイクル	204万トン 20%

廃プラスチックの有効利用量



日本テクノ 緊急時応動システム

例: キュービクル内事故による停電の発生から復旧まで



OF FOCUS & OASIS

日本最高レベルの事故応動体制を構築

ユーザーの業務推進に不可欠なキュービクルなどの電気設備。その保安業務に携わる民間事業者で、トップシェアを維持し続けるのが日本テクノである。そして、民間第一位の事業者として、もっとも力を入れているのが、事故対応の体制づくりだ。ここでは「日本最高レベルの事故応動体制」とも称される同社の取り組みについて紹介していく。



ESシステムDNA-ERIA

ユーザーの受変電設備に設置されるDNA-ERIAは、停電などの異常信号はもちろん、デマンド値などの電気の使用状況も集積している。

【ユーザー数】
全国約28,000事業所
【監視体制】
24時間365日



監視センター OKINAWA



信頼を支えるもの

日本テクノの設立は一九九五年。以来、数々の革新的なサービスを取り組んできた。デマンド値や電源異常などを自動的に検出する主力商品の「ESシステムDNA-ERIA」、テナントビル各室の電気料金を明瞭会計で個別請求ができるようにした自動検針システム「エコテナンント」、特定規格電気事業者に登録しての電力小売り事業への参画など、すべてのビジネスと人々の生活を支える電力関連事業の新しい分野を切り拓いてきた企業である。サービスの優劣を判断する市場は、同社の新しい取り組みを歓迎した。これまでより便益性が高く、環境問題に貢献できる面を認め、同社のサービスを広げ受け入れるようになった。現在、同社の顧客数は全国で約二万八〇〇〇事業所であります。電気保安業界の民間企業として、トップの地位を維持し続けている。

しかし、単なる革新的なサービスの提供だけで、トップシェアが継続できることはない。そのサービスが信頼されるだけのバックボーンがなくては、淘汰されることは目に見えている。市場、そして個々のユーザーが同社のサービスを支持し続ける要因はどこにあるのか。それは、同社が新サービスの開発とともに、事故応動の体制づくりだった。

そして、ユーザーはその姿勢を見つめていた。結果、数字として示されたのが、電気保安業界での民間トップ企業という位置づけだった。

同社の事故応動体制の中核は、沖縄にある監視センターと、そこに配備された独自開発の情報システムである。そのシステムが「オアシス」「フォーカス」(下段参照)である。

独自開発のシステム

同社の事故応動体制の中核は、沖縄にある監視センターと、そこに配備された独自開発の情報システムである。

そのシステムが「オアシス」「フォーカス」(下段参照)である。

同社の事故応動体制の中核は、沖縄にある監

実はたくさんのお客様が利用中です。

「電気保安」を変えるなら電気料金も削減できる、日本テクノにおまかせください。



管理しながら電気代を安くする日本テクノのESシステムDNA

電気料金削減に ESシステム DNA

デマンド警報により無駄な電気の使いすぎを抑え、社内の環境意識、経費削減意識を向上させます。

電気料金の仕組みをご存じですか?

電力会社が電力需要家の30分ごとの使用電力の平均を計算して、年間を通じて電力を最も多く使用した30分の電力量を契約電力とします。しかし、一度でも現在適用されている最大デマンドを超えてしまうと、向こう1年間にわたり、今まで高い電気料金を支払わなければなりません。

法定点検 お客様電力設備の保安点検はお任せください。

いつもの点検で安心できますか?その点検は本当に安全ですか?支払っている点検費用は適正ですか?

当社保安部門スタッフが責任を持って点検いたします。

※一部地域により、協力会の同等有資格者が点検します。

DNAの主な機能とサポート

●デマンド監視機能 電気使用状況を常時監視し、デマンド警報を音声メッセージ付パトランプの作動もしくはお客様ご指定の連絡先へ自動音声にてお知らせします。またデマンド監視の記録を30分ごとに1年分記録します。

●絶縁監視機能

お客様電力設備全体の漏電を検出。50mAを超えると、発生時刻と復旧時刻を記録。当社もしくは当社提携の電気管理技術者に連絡します。

●電源異常監視機能

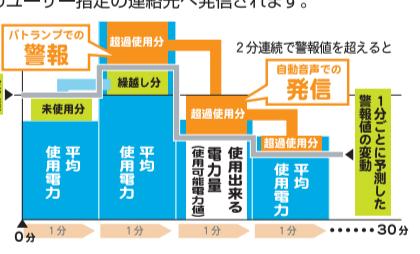
お客様受電設備における電源異常を検出します。また全停電時、お客様へ連絡のほか、当社24時間技術センター、当社もしくは当社提携の電気管理技術者に連絡します。

●トランク温度監視機能

お客様受電の状況によって通報温度を設定し、トランク温度の異常を検出します。設定値を超えた場合は発生時刻と復旧時刻を記録。当社もしくは当社提携の電気管理技術者に連絡します。

デマンド警報の仕組み

電力会社のデマンドメーターは30分ごとに計量・記録しますが、ESシステムDNAは1分単位で計測。ユーザーの使用できるデマンド値を予測・設定し、その設定値を超えて1分経過した場合、ユーザーに対象電源機器を落としてもらうためにパトランプで警報。その後何らかの事情で節電すれば、分かに経過した場合は自動音声機能によりユーザー指定の連絡先へ発信されます。



※電気料金の削減が可能となる条件は、お客様設備・電力会社との契約内容などによって異なります。お気軽にお問い合わせください。

表示内容一覧

●使用電力量全般

●デマンド値 ●ピークデマンド値 ●当日電力量表示

●当月電力量表示 ●前日電力量表示 ●前月電力量表示

●室温 ●基本料金 ●当日電気使用料金 ●当月電気使用料金 ●前月電気使用料金

●室温 ●目標室温 ●平均室温

●CO2換算量

●現在室温 ●目標室温 ●平均室温

●CO2換算量

●電気の使いすぎがわかる!

●デマンド超過前にお知らせする!

●侵入者を検知し、威嚇する!

●電気保安点検結果

